

武庫川周辺のシンジュサン

新 家 勝

I はじめに

父親の勤務の関係で、有馬街道小部峠付近で過ごした幼小の頃、友達も遊び場もほとんどない山中の社宅で、遊び相手は、もっぱら虫たちであった。路傍のハンミョウ、裏山のミヤマクワガタやカナブンたち、溝際のオニヤンマ。そして、捕らえやすく、一際、立派な天蚕蛾は、春から夏にかけてのミスアオ類、晩夏から初秋にかけてのヤママユ、中秋のクスサン、晩秋のヒメヤママユにウスタビガなどで、その豪華さが幼い心を魅了した。そんなある日、薄茶の見慣れない天蚕蛾が、ふわふわと目の前を横切って行った。兄に調べてもらったところシンジュサンとのこと。これが私とシンジュサンとの出会いであり、その優雅さは、いまだに脳裏に焼き付いたままである。

小学生になり、武庫川のほとり、武庫郡大庄村西（現在、尼崎市大庄西町1丁目）へ引越した夏、村のお宮で、立木にぶらさがる多数のシンジュサンを見て、夢ではないかとわが目を疑った。その後ずっと武庫川の近くに住み続ける筆者にとって、この神社、6年間通学した甲陽学院の中庭、甲子園球場前の旧枝川（武庫川支流）堤防、移り住んだ甲武橋付近など、行くところには常にシンジュサンがいた。

このようによくいたシンジュサンも、最近めっきり少なくなったように思われる。そこで、「武庫川周辺のシンジュサン」としてデータをまとめてみようと思っていたところ、今年ちょっとした動機があり、とりまとめたので報告させていただく。

II 記録データ

1. 従来記録

- (1) 1939～1949 武庫郡大庄村西字栄地、市制実施後は尼崎市西字栄地、現在は尼崎市大庄西町1丁目、須佐男神社

発生期には、社務所脇に栽植されている3cmばかりの木の枝に多数の本種がぶら下がっていたものである。当時、木の名前が分らず、本種がいるからシンジュだろうと思っていたが、それはクロガネモチで、今訪ねてみると、周囲166cm(高さ1mのところ)、高さ約8m(目測)もある大木になっている。なお、ここではクスノキで発生していたことがあった。当時の標本は、残念なことに破損してしまった。

- (2) 1945～1950 西宮市今津高潮町、甲陽学院校庭及び旧枝川堤防

6年間、通学した甲陽学院（当初は財団法人辰馬育英会 甲陽中学校、その後は学校法人辰馬育英会 甲陽学院高等学校）の中庭に栽植されていたシンジュ及び校門前の旧枝川堤防に自生するクロガネモチでよく発生していた。なお、1930～1935頃、在学した人の中に、中庭のシンジュでの発生をいまでも憶えている人がいる。

(3) 1964.5.24 西宮市樋ノ口町1丁目

たまたま自宅の庭に飛来したものを撮影した。1954に西宮市樋ノ口町1丁目（甲武橋西詰）に引っ越したところ、この辺りの武庫川堤防や畑の隅に生えているクロガネモチで発生しているのがみられた。昭和40年代になると、住宅が建ち始め、幼虫が子供たちの「おもちゃ」になっていたが、民家が建て込み、虫を嫌う人たちが増えるにつれてドクガと間違えられ、たちまち駆除されることになった。

(4) 1969.10.4 宝塚市安倉 住吉神社、クロガネモチを食う終令幼虫を目撃。

(5) 1974年頃 伊丹市池尻 春日神社

本殿近くにあった背の低いエノキで終令幼虫を見た。本殿が改築された際、このエノキはなくなってしまった。

(6) 1976.6.6 西宮市樋ノ口町1丁目

小学生の頃の標本が、管理不良のため劣化、破損してしまったので、補充のため1♂、1♀を採集し、現在、良好な状態で保管している。

(7) 1979.12.2 宝塚市安倉中2丁目 住吉神社、本殿裏のクロガネモチで繭を目撃。

(8) 1981.8.23 西宮市小曾根町4丁目 白山姫神社、クロガネモチで古い繭を目撃。

(9) 1982.9.3 宝塚市武庫川町 宝塚大橋電燈、1♂を採集（第11巻第1号で報告）。

(10) 1983.1.30 西宮市上之町 武庫川堤防、クロガネモチで繭を目撃。

(11) 1983.7.24 宝塚市美座1丁目 宝塚中学校々庭

クロガネモチで終令幼虫を目撃。

(12) 1984.8.9 宝塚市武庫川町 宝塚大橋電燈、成虫を目撃。

(13) 1986.7.25 宝塚市中山寺2丁目 中山寺、クロガネモチで終令幼虫を目撃。

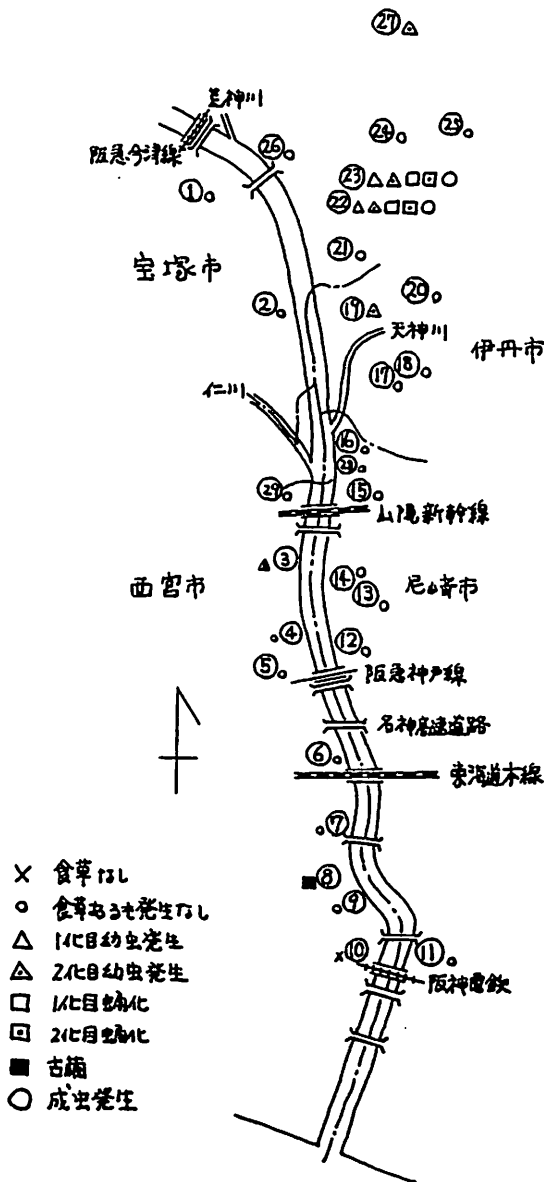
(14) 1986.9.14 安倉北4丁目 愛宕山神社、クロガネモチで終令幼虫を目撃。

2. 1988年の記録

本種の成虫は、午後明るいうちに羽化し、夜半から翌夕にかけて交尾した後、夜が来るとともに飛び去るので、余程多く発生しないかぎり、発生場所においてもなかなかお目にかかれない。一方、発生木に幼虫がおれば、食痕や糞を目印に見つけ易い。殊に終令幼虫は、大きな糞を多量に地面へ落とすので見つけのに好都合である。また、この地域での食草は、クロガネモチが圧倒的に多

く、武庫川堤防での成木の自生、付近の社叢林での成木の栽植、植木畑での成木及び幼木の栽植のほか、旧村落を主とした民家での栽植が見られる。そこで、宝塚大橋以南の武庫川の両岸からそれぞれ約1kmの範囲で、民家を除いて食草のある又はありそうなところ約30箇所を、7月中～下旬及び9月中～10月初旬にかけて調べ、2化目の成虫の発生する8月中旬～9月上旬には先に幼虫がおり、その後、蛹化を確かめた場所についても調べた。また、古木や苗木程度の幼木での発生例がないように思うので、近年、発生例のあった木や前記範囲外での発生木についても幹の太さを測っておくことにした。

以下、調査場所を列挙するとともに、発生状況を略図上に示す。



- | | |
|---------------------------|-------------------|
| ① 宝塚市伊予志1丁目 伊和志津神社 | ⑮ 尼崎市常松2丁目 春日神社 |
| ② 宝塚市高司2丁目 素盞鳴神社 | ⑯ 尼崎市西昆陽3丁目 須佐男神社 |
| ③ 西宮市樋ノ口町1丁目～2丁目
武庫川堤防 | ⑰ 伊丹市池尻6丁目 春日神社 |
| ④ 西宮市上之町 武庫川堤防 | ⑱ 伊丹市池尻2丁目 市杵嶋姫社 |
| ⑤ 西宮市日野町 日野神社 | ⑲ 伊丹市西野2丁目 素盞鳴神社 |
| ⑥ 西宮市熊野町 熊野神社 | ⑳ 伊丹市中野北1丁目 素盞鳴神社 |
| ⑦ 西宮市戸崎町 武庫川学院 | ㉑ 宝塚市安倉中2丁目 住吉神社 |
| ⑧ 西宮市小曾根町4丁目 白山姫神社 | ㉒ 宝塚市安倉中1丁目 植木畑 |
| ⑨ 西宮市小松東1丁目 武庫川堤防 | ㉓ 宝塚市安倉北2丁目 植木畑 |
| ⑩ 西宮市小松南2丁目 岡太神社 | ㉔ 宝塚市安倉北4丁目 愛宕山神社 |
| ⑪ 尼崎市大庄西町1丁目 須佐男神社 | ㉕ 伊丹市荒牧 天日神社 |
| ⑫ 尼崎市武庫町3丁目 武庫川堤防 | ㉖ 宝塚市美座1丁目 宝塚中学校 |
| ⑬ 尼崎市武庫元町2丁目 須佐男神社 | ㉗ 宝塚市中山寺2丁目 中山寺 |
| ⑭ 尼崎市武庫元町3丁目 西武庫公園 | ㉘ 尼崎市西昆陽3丁目 武庫川堤防 |
| | ㉙ 尼崎市西昆陽3丁目 武庫川堤防 |

次に、本種の発生が見られた食草の地上約1mで測った周囲寸法を列挙する。なお、付記した番号は、前記調査番号を示し、番号を付記しないものは、宝塚市山本東3丁目及び伊丹市荒牧池付近の植木畑、伊丹市鴻池の公園など武庫川からかなり離れた地点で、たまたま見つけものである。

25cm未満のもの	なし
25cm以上50cm未満	29cm、30cm、33cm、38.5cm ^㉔ 、43cm、46cm ^㉒ 、46.5cm ^㉓ 、47cm ^⑱ 、49cm
(計9例)	
50cm以上75cm未満	69cm、71cm ^③ (計2例)
75cm以上100cm未満	77cm ^㉘ 、77cm (計2例)
100cm以上	124cm ^④ 、124cm ^⑧ 、145cm ^⑱ ただし88cmと98cmに分幹 (計3例)

Ⅲ まとめ

この地域でのシンジュサンは、年2化、それぞれ5月下旬～6月上旬及び8月中旬～9月上旬頃に成虫が現れる。越冬は蛹です。食草は、ほとんどがクロガネモチで、シンジュ、エノキ、クスノキの例もある。クロガネモチは雌雄異株であるが、いずれにも発生し、古木や幼木では余り発生せず、周囲25cm～50cm程度の成木での発生例が多い。また、挿し木や取り木、実生などから成長した新生株だけでなく、伐採後のひこばえから成長したものにも発生し(19の例)、自生品や栽植品の別なく発生するが、他の高木や建物などがなく、道路や田畑などのため開かれた側で幼虫の生育が多く見ら

れる。クロガネモチは、武庫川周辺の各所に分布しているが、上流部に多く、幼木、成木、古木など大きさもいろいろである。下流部では、古木が散在するが、幼木や余り大きくない成木もほとんどなく、全般的に少ない。殊に、阪神電鉄以南では、ほとんど見ることがない。

現在、本種は武庫川周辺の上流部には確実に分布しているが、下流部については、記録と痕跡があるのみである。しかしながら、下流部についても、発生に適した成木が成長するなど条件さえそろえば、発生の可能性はあると思われる。あるいは、目こぼしも当然あることだから、もっと多くの場所で発生しており、その中には下流部での発生があるかも知れない。食草であるクロガネモチは最近人気があり、公園や民家への栽植、それに伴う植木畑での栽植が盛んであるから、食草は増える傾向にある。ところで、本種がよく発生する余り大きくないクロガネモチの成木は、今回発生を確かめた場所以外にも少なくないが、こうした木があるからと言って必ずしも発生しないのは食草の成長度や生えている土地の土質などによる成分の違い、日照などの環境等、様々な条件が適しないと発生しないためと思われる。それにしても、虫イコール害虫、即殺虫剤撒布というパターンでの定着した現在、市街地近くで発生することは、なかなか困難であるが、社寺林や公園、植木畑それに堤防などの人目につきにくいところでは今後とも発生し続けるであろう。

神崎町福本における建造物内と周辺および路面上の蜻蛉

森 田 真 澄

最近住宅街にある自宅付近では目に入ることのめっきりと減ってしまったトンボであるが、筆者の日常の行動圏の一角である神崎郡神崎町福本では分布論上特に貴重なもの珍無類な種は発見していないが、人間の極く極く近くにトンボ達が棲息しており目の正月をさせてくれる。そこで人為的な環境変化を多少被ったトンボ達と簡略な環境状況を報告する。

◎グンバイトンボ *Platynemis foliacea sasakii* Asahina と棲息地

<採集例> 1♂., 11—Ⅶ—1987, 1♂ 1♀., 19—Ⅶ—1988, 1♂., 13—Ⅵ—1988.

小規模な工場の南側を流れる細溝や付近の叢に少なからず見られる。交尾例も1988年6月15日正午頃目撃している。この細溝は1984年に開削してできた人工的な水路であるが、コンクリート等で成型はしていない。細溝の南側は丘陵地の傾斜面であり小流と滲出水が少量流入する。細溝の水のPHは